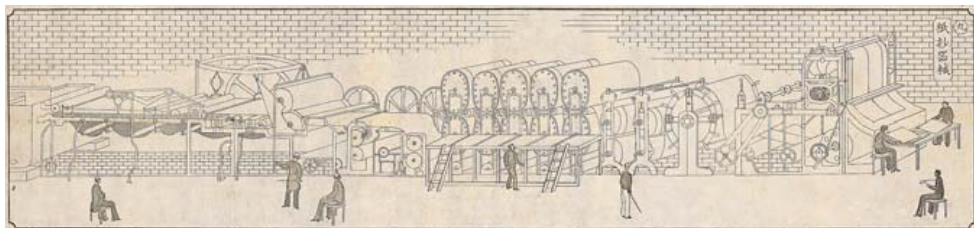


明治維新後、渋沢栄一は、あらゆる事業を盛んにするためには、人々の知識を高める書籍や新聞などの印刷物の普及が必要で、そのためには安価で大量印刷が可能な洋紙製造をすべきと考えます。そして、明治6年、抄紙会社(後の王子製紙株式会社 現・王子ホールディングス株式会社の前身)を創立します。

本展では、創立後、幾多の困難に直面した栄一が、悩みながら同社を製紙業界のリーダー的存在として育成し、次代へ引き継ぐ様子を通して、栄一と王子製紙の関わりをご紹介します。



王子製紙会社の経営陣(於 王子工場)  
明治26年(1893) 公益財団法人 紙の博物館所蔵



第1号抄紙機(「王子製紙会社略図」より) 村井静馬画 明治10年(1877)

表紙絵：武陽王子飛鳥山真景(部分) 鉄菅真郷画 明治21年(1888) 独立行政法人 国立印刷局王子工場所蔵  
正面は飛鳥山。山上左手には渋沢栄一別荘の建物があり、その麓には「製紙会社」王子工場が描かれています。  
\*所蔵明記のない資料は、全て渋沢史料館所蔵  
本リーフレット掲載の公益財団法人 紙の博物館所蔵の資料名称は、渋沢史料館が独自につけたものです。



渋沢栄一 明治16年(1883)

公益財団法人 渋沢栄一記念財団 〒114-0024 東京都北区西ヶ原2-16-1  
渋沢史料館 電話：03(3910)0005  
Shibusawa Memorial Museum <http://www.shibusawa.or.jp>

開館時間：10：00～17：00(入館は16：30まで)

休館日：3/18・21・25、4/1・8・15・22・30  
5/7・13・20

入館料：一般300円(240円)／小中高生100円(80円)

\* ( )内は20名以上の団体料金  
三館共通券 一般720円／小中高生240円

アクセス JR京浜東北線王子駅南口徒歩5分  
東京メトロ南北線西ヶ原駅徒歩7分  
都電荒川線飛鳥山停留所徒歩4分  
都バス飛鳥山停留所徒歩5分  
北区コミュニティバス飛鳥山公園停留所徒歩3分  
\*専用駐車場はありません。公共の交通機関をご利用ください。

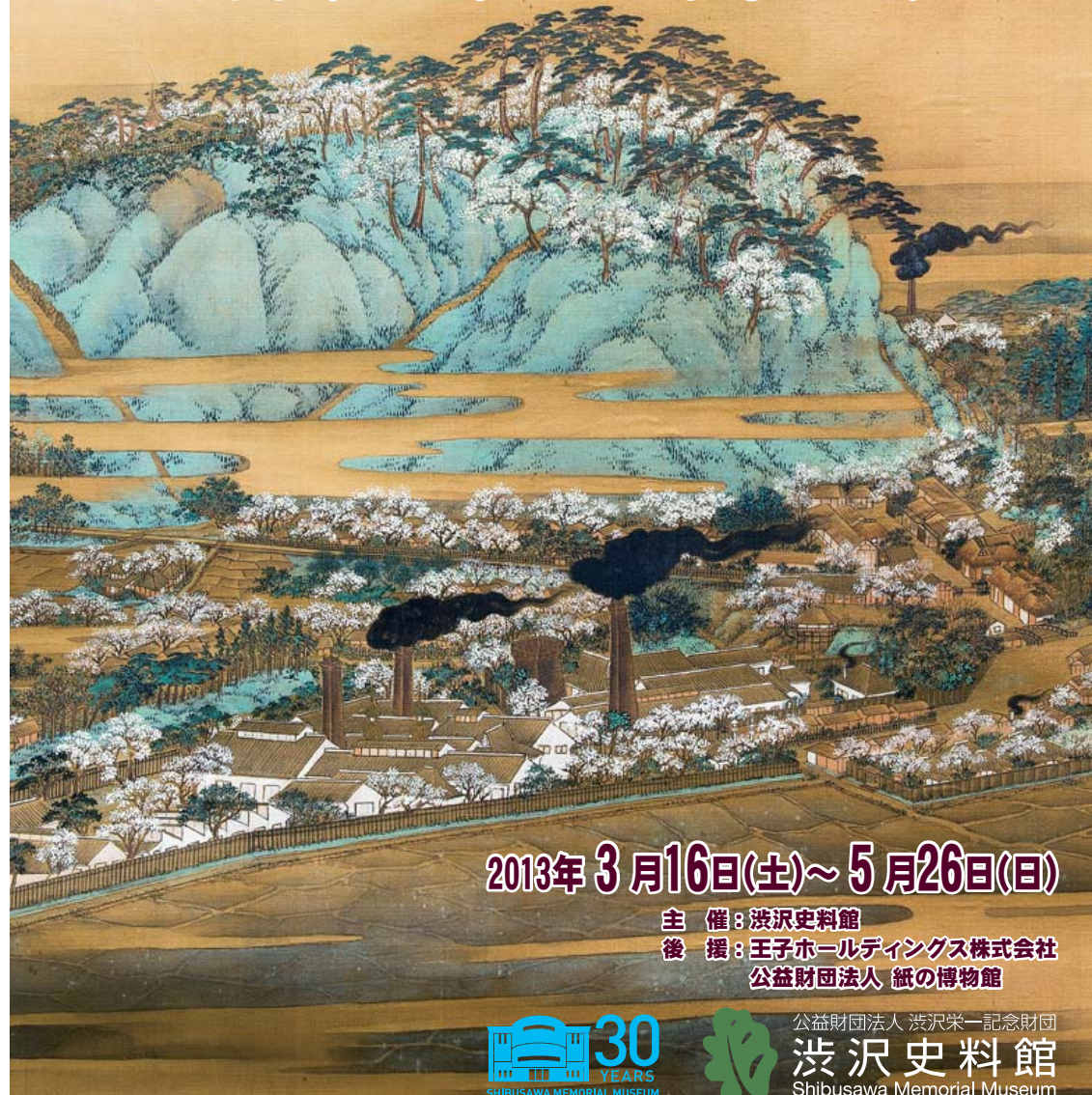
次回の展示

収蔵品展 『徳川慶喜公伝』と渋沢栄一  
会期：2013年6月8日(土)～8月11日(日)

使用用紙：王子製紙株式会社 OKプリンス上質 104.7g/m<sup>2</sup>

企画展

# 渋沢栄一と 王子製紙株式会社 ～国家社会の為に此の事業を起す～



2013年3月16日(土)～5月26日(日)

主催：渋沢史料館  
後援：王子ホールディングス株式会社  
公益財団法人 紙の博物館

30  
YEARS  
SHIBUSAWA MEMORIAL MUSEUM

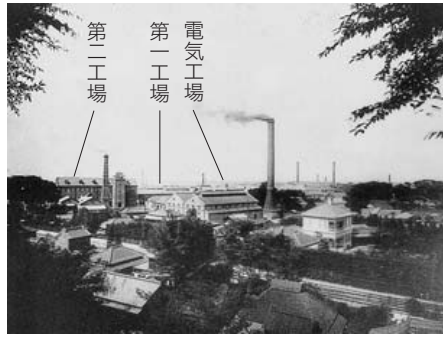


公益財団法人 渋沢栄一記念財団  
渋沢史料館  
Shibusawa Memorial Museum

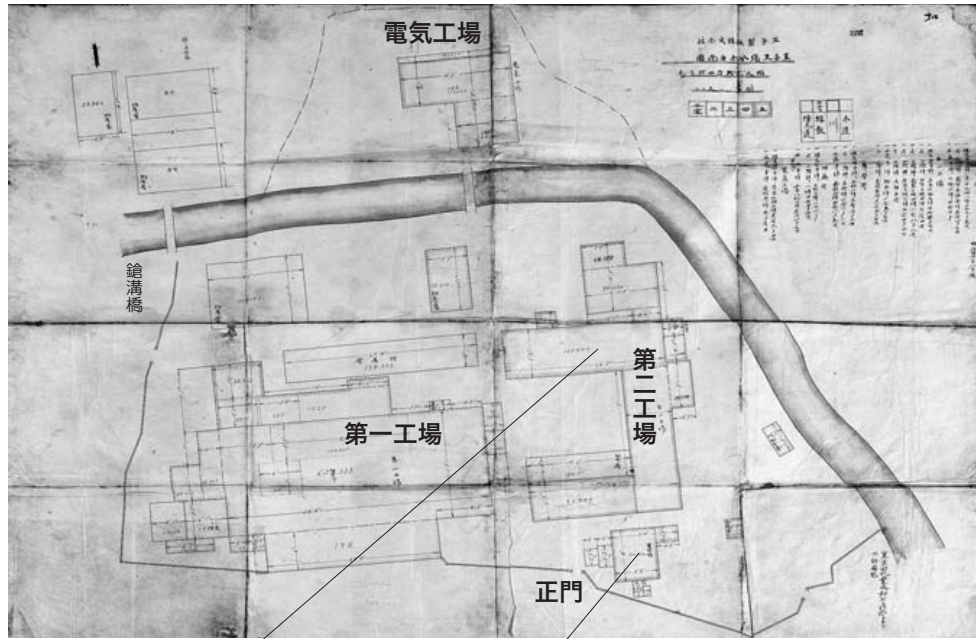
## 王子製紙株式会社王子工場

明治8年、抄紙会社(王子製紙の前身)の王子工場が、現在のJR王子駅東側辺に完成し、本社も置かれました。その後、工場敷地は周囲に拡張していきました。昭和20年4月13日に米軍の空襲を受け、工場が全焼。翌21年1月15日に復旧作業中止が決定され、70年余続いた王子工場は閉鎖されます。

戦後、王子製紙は三分割されましたが、その後、合併、社名変更などを経て、現在、王子ホールディングス株式会社、日本製紙株式会社が、その系譜を引いています。



明治末期の飛鳥山よりみた王子工場  
明治44年(1911)以前



明治40年(1907)の王子工場全部平面図  
公益財団法人 紙の博物館所蔵



第二工場  
明治22年(1889)竣工

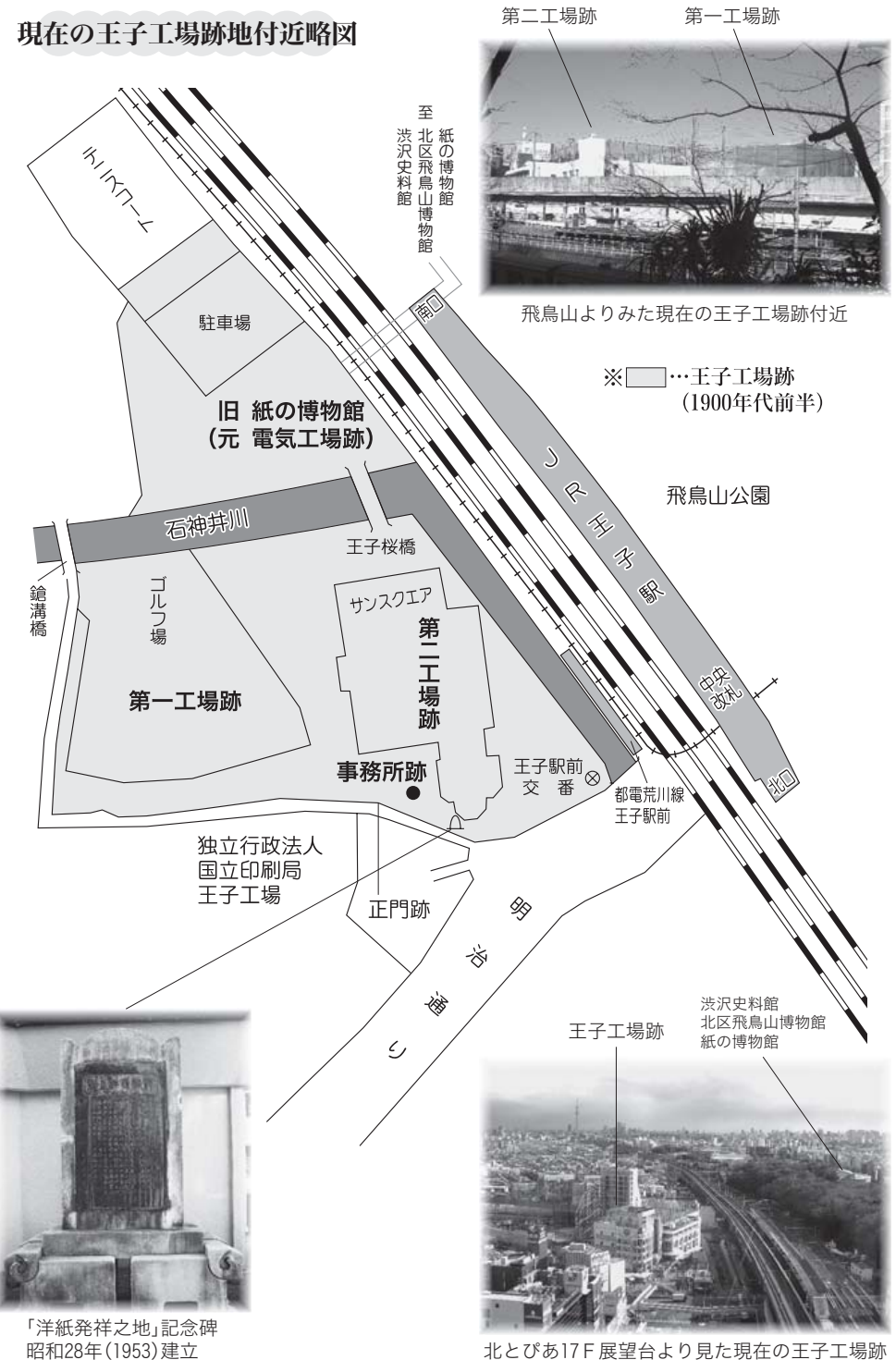


事務所  
明治23年(1890)竣工

## 王子工場跡めぐり

現在、王子工場跡は商業施設やゴルフ練習場などとなっています。明治40年の平面図(上図)と現在の様子を比べながら歩いてみると、工場周囲を巡っていた道や石神井川も残り、かつての工場の区画や広さを実感することができます。

## 現在の王子工場跡地付近略図



飛鳥山よりみた現在の王子工場跡付近



「洋紙発祥之地」記念碑  
昭和28年(1953)建立



北とびあ17F展望台より見た現在の王子工場跡